

函館山にコアカソ (*Boehmeria spicata*)

函館市 酒井 信

花も少なくなる観察シーズン終盤の2020年10月8日、開花には早いキクタニギクの様子を見るため函館山の生育地を訪れた。それはまだ小さな蕾であったが、眼に入ったのは枝を広げ、よく繁ったイラクサ科のアカソ類、コアカソ *Boehmeria spicata* であった。現地は散策コースであり、植物観察でよく通る道沿い、特にこの時期にはキクタニギクの観察などでしばしば訪れる所であるが、これまでコアカソ(以下、本種)の存在には気付いていなかった。しかし、本種はかねてから気になっていたため、あらためて確認すると、一見して、他のアカソ類(ヤブマオ属 アカソ、クサコアカソ、ヤブマオなど)とは明確な違いがあることに気づき、コアカソであることが判った。

北海道内の自生について

本種は、北海道維管束植物目録(2015)では、アカソの欄に「同属のコアカソは半低木で本州に自生」、新北海道の花(2017)には「クサコアカソと混同されるが、木質化、道内に自生しない」、北海道の草花(2018)には「和名が似ていて混同されるコアカソは半低木で北海道には分布していない」とそれぞれ記載され、道内には自生しないことになっている。

一方、函館山の植物は地元の研究会、公的機関、愛好者など多数の人々がふれあい、観察されている。今回のような移入種と思われる種がどの程度把握されているかは分か

らないが、本種はキクタニギクの生育地にあるため人目に付きやすく、さらにかかなりの時間が経過しているようであるため、知られていないとしたら不思議なくらいである。気付かれていながら一般の目に留まる情報として出ていない可能性もある。

生育地

本種は函館山7合目、通称つつじ山駐車場から千畳敷に向かう道路沿いの斜面とその下に生育している。標高約280mの南向き、陽当たりの良い急斜面であり、何度か危険箇所ということで工事が行われた様で、斜面にネットが張られている。本種は地図上で見るとこの斜面のおよそ60mの区間に生育しており、キクタニギク群落の範囲とぴったり重なっている。また、後述するように、本種はその成長状態からかなり以前から生育していたように思われる。一方、キクタニギクが最初に確認された時期は判らないが、筆者が初めて見たのは2003年11月であり、こちらもちかなりの期間経過している。そのころ、現地で見た工事施工の標柱に、「バイオ種子吹き付け工 平成7年10月20日～12月20日」、また、「昭和62年9月12日着工、11月30日完成 木本類植え付け工 550株」の記載があった。これらの事から現場は人為的な環境であり、本種はキクタニギクと共に、工事に伴い持ち込まれたのではないかと思われる。